

『胃瘻を造設しても、経腸栄養をしながら、 食べることができることを知ってもらおう』

9月 は下旬になり、やっと、秋が近づいてきたという感じ。酷暑、猛暑、熱帯夜、夏日、こういう表現がやっと不要に。暑い日が続くと同時に各地で線状降水帯が発生して、大きな被害を受けた地域がありました。三重県四日市市の地下駐車場の水没もすごいことでした。竜巻による被害もありました。日本の気候はどうなっているのでしょうか。2025年9月の最高気温は37.1℃、東京でも35℃を超えた日がありました。

9月12日、私が尊敬する先輩、**坂本嗣郎先生**が亡くなられました。第2回リーダーズの特別講演で「骨髄移植を受けた現役外科医が語る栄養管理の重要性」を話していただきました。2013年に多発性骨髄腫に罹患し、骨髄移植を受けられて元気に活躍しておられたのです。坂本先生にも「がんばってるやん」と応援してもらっていました。大宮にも何度も講演に呼んでいただきました。大阪から中央医科グループの重要な人材として埼玉へ行かれ、彩の国東大宮メディカルセンターを新しい病院に建て替えられました。坂本先生のアイデアが詰まった病院です。本当に寂しくなりました。

世界情勢の動きは、やはり解決しないウクライナ問題とパレスチナ問題。かわいそう、としか表現できない。ロシアとイスラエルは理解不能。トランプの動きは自分のため。プーチンとトランプのアラスカでの会談は無駄でした。中国で抗日戦争勝利80年の軍事パレードが盛大に行われ、プーチンと北朝鮮の金書記長が参列。国連総会でトランプが国連は機能していないと責めたけど、その原因はどこにある？USA、ロシア、中国でしょう。それがなぜわからないのだろう。権力者の勢力争い、自分のためです。

いい話ですか？東京で世界陸上が開催され、かなり盛り上がったようです。日本のメダルはわずか2個。なんというか、人種の違いによる能力差が明らかだと思いました。関西では大阪関西万博が大盛り上がりようです。行っていないので現実味はないけど、大成功かもしれません。私はほぼ無関心。それにしてもミyakミyakグッズの高いこと。先日、ミyakミyak 3色ボールペンを購入。1本740円也、高い！商売ツ気が強すぎる…。プロ野球では**阪神タイガースがぶっちぎりで優勝**。なんと、9月7日に優勝決定。別府の松本先生が大喜びしたはず。2位以下との差が大きすぎます。パリーグはソフトバンク・ホークスが優勝しました。

大学は長い夏休みが終わって9月22日から講義再開。昨年と同じ講義をすればいいのですが、そうもいかない、それが私。講義中に学生が寝ないようにするにはどうすればいいのか、いろいろ考えて工夫しています。だから結構忙しい。月曜日に臨床医学Ⅱ、火曜日と水曜日に臨床栄養学Ⅲ、水曜日に看護学部栄養学の講義。講義用スライド、小テスト、配布資料を作って印刷。私がこういう準備をして講義に臨んでいるなんて、学生達は考えてもいません。仕方ないこと。単位さえくれたらいい、のでしょうか。

学外の仕事は、9月5日に金沢医科大学へ講演に。臨床感染症学の飯沼教授にお招きいただきました。飯沼先生とは、1999年に名古屋大学の故武澤教授と一緒に科学技術庁のカテーテル関連血流感染予防対策のガイドライン作成班で一緒に以来の



↑尊敬する第一内科的先輩、彩の国東大宮メディカルセンターの元院長、坂本嗣郎先生がお亡くなりになりました。寂しくなりました。上の写真は2016年の第2回リーダーズ、特別講演の時の写真。下は2014年、大宮・A&Rでの講演会時の写真です。スナックみんなに囲まれていた。素晴らしい先輩でした。



↑金沢医科大学病院のすぐ後に西園寺氏があります。内田康夫の中国「砂漠宮」の舞台となっているので知っていました。だから砂漠を見たかったのです。タグシーの運転手さんがこの砂漠を連れてくれました。最悪のことをしてしまったのだとのこと。この日は天気が不安定だったのですが、天気によって景色が、表情が、変わるのだそうです。

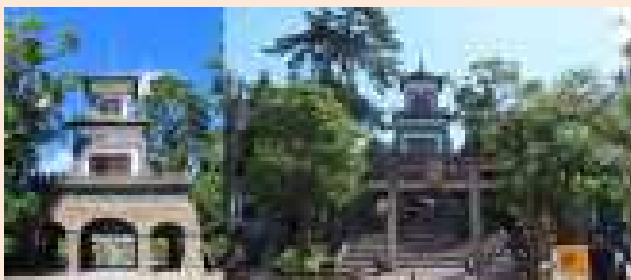


↑翌日は一人で兼六園へ行きました。暑い日でした。金沢駅の近くの日航ホテルに泊まっていたのですが、ひたすら歩いて兼六園へ行きました。65歳以上の方は無料、だから、もちろん、私は無料で入場できました。

お付き合い。微生物関連でわからないことがあると、いつも教えていただいています。感染管理専門看護師の野田さんと中川さんががんばって感染対策をしておられますが、今回は、私が持っているデータを示しながら、輸液の性質を考えた感染管理をしなければ、という話をさせていただきました。翌日は一人で兼六園や金沢城の観光をしました。歩き回ったので汗だくなりました。

9月20日は大分で「PICCの講演+IPエコーを用いたハンズオンセミナー」。今回の参加者は25人で、東京、札幌、名古屋などの会場よりも盛り上がりました。別府医療センターの松本先生と診療看護師の田村さんががんばって集客してくれたからです。参加者も熱心にPICC挿入手技の練習をしていました。講演の前には大分城跡へ行き、周りの公園を散策。城は天守閣がなく、駐車場になっていたのは残念でしたが、お堀周りにはいい雰囲気でした。遊歩公園彫刻群の中に「西洋医術発祥記念像」がありました。1557年にポルトガルの医師、アルメイダによって行われた手術を記念して。近くには西洋音楽発祥記念碑も。時のキリシタン大名、大友宗麟のおかげでしょう。翌日は松本先生と田村さんに中津市へ連れて行っていただきました。中津城、福澤諭吉記念館、大江医家資料館へ。大江医家資料館には10年前に行っていました。行ったことはもちろん覚えていましたが、来訪者名簿に自分の名前を見つけ、驚き。細かいことを覚えていなかったのです。今回は詳しい説明を聞けて本当に勉強になりました。心臓の刺激伝達系の田原結節を発見した「田原淳」のマンガ伝記の本を買っていたのですが、それを覚えていなくて、今回も購入しました。中津城は日本三大水城であることも知りました(今治城と高松城)。福澤諭吉が「結婚後は夫の姓でも妻の姓でもなく、新しい姓を作るべきである」との考え方を示していたことを知り、明治時代に現在の男女別姓問題を考えていたんだ、と感銘を受けました。福澤諭吉の伝記のマンガを購入。1万円札の写真しか見たことがなかったのですが、若い頃の洋風の写真はなかなかのものでした。確かに、知の巨人、です。

9月27日には東京で第29回PEG・在宅医療学会学術集会。一般演題2題を発表します。さらに、特別企画で特別発言を依頼されています。何をしゃべればいいのか？悩んでいます。



↑ 尾山神社です。主祭神は加賀藩の藩祖、前田利家公と妻の芳春院です。門の写真を撮りましたが、独特です。ここも外国の方がたくさんいました。ここを出る時には汗で脱水気味になっていたような感じがして、自動販売機で500mLのスポーツ飲料を買い、一気飲みしました。



↑ 兼六園で見た植栽の多くは外国の方。本当に外国の方が多くて、日本人はまばらでした。



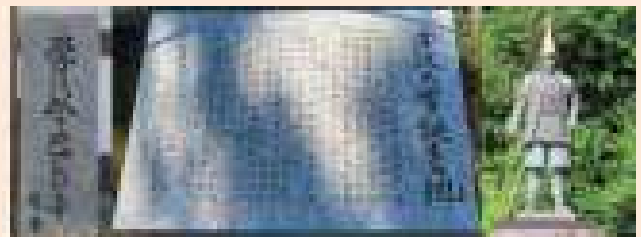
↑ 兼六園というと、この景色。微軫灯籠です。「ことじとうろう」と読みます。写真は何回も撮っていますが、やっぱり、ここへ来たら写真を撮らなくてはならないでしょう。いい写真が撮れました。



↑ 金沢城へも行きました。兼六園から金沢城へのこの橋にはいろいろな思い出があります。いい景色ですね。天守閣がないのは残念ですが、これも仕方ないこと、歴史ですから。



↑ 金沢城の三の丸広場です。広い、暑い。日陰がありません。もちろん、日傘も持っていなかったのが、暑かった！汗だく！広々としたいい雰囲気です。冬に来るのがいいと思います。



↑ 金沢城の中に「金沢大学誕生の地」の碑を見つけました。すぐ傍に「学は以て已むべからず：荀子(じゅんし)」の碑もありました。「学問を途中で止めてはいけない」という意味です。右の写真は前田利家公です。

小越先生:大学の長い夏休み、教官としてはどう過ごしたんだ？

ゼン先生:いつものように大学の研究室に来て、勉強したり原稿を書いたり、講演準備をしたりして過ごしました。

小越先生:君はそれしかできない人間だから、仕方ないな。

ゼン先生:それでいいんです。でも、あっという間に夏休みが終わったような感じです。いろいろ仕事をしていましたから。

小越先生:出かけたりはしなかったのか？

ゼン先生:9月の最初の週には金沢へ講演に行きました。金沢医大で CRBSI 予防対策の講演をしました。これも仕事ですけど。金沢医大には 2012 年にも講演に行っていました。同じように CRBSI 予防対策の講演でした。

小越先生:前と同じ内容だったんじゃないか？

ゼン先生:いえいえ、新しい内容もたくさん入れました。

小越先生:その年齢になっても新しいデータを出しているのか。

ゼン先生:はい、がんばっています。そうそう、金沢医大は内灘砂丘の近くにありまして、タクシーの運転手さんに講演前に連れて行ってもらったんです。

小越先生:砂丘に入ったのか？

ゼン先生:運転手さんも初めてだったようですが、砂丘をタクシーで走りました。

小越先生:なんと！千里浜じゃないんだろう？

ゼン先生:内灘砂丘です。あとで金沢医大の人達に、あぶないことをした、と言われました。

小越先生:無事でよかったな。

ゼン先生:そうですね。翌日は兼六園、金沢城、尾山神社と歩き回りました。

小越先生:がんばって有意義な夏休みを過ごしたんだな。

ゼン先生:せっかくの金沢ですから。大分へも行きました。これも講演なので仕事ですが。

小越先生:大分で講演？今回は別府じゃないのか？

ゼン先生:大分市です。私の故郷の愛媛の国道は 197 号線ですが、大分市の真ん中を走っている国道も 197 号線です。豊後水道で隔てられているのに国道はつながっているんです。

小越先生:へええ。

ゼン先生:終点が、私が宿泊したホテル日航大分の近くでした。なんか、それに気づいてうれしかったんです。

小越先生:そうか、大分へ行った甲斐があったな。いい夏休みだったんじゃないか？

ゼン先生:大分では別府医療センターの松本先生と田村さんに中津へ連れて行っていただきました。

小越先生:それもよかったな。

ゼン先生:いい思い出ができました。二人に感謝、感謝です。

小越先生:大分は PICC だろう？今回の話題は PICC か？

ゼン先生:いえ、今回は胃瘻です。

小越先生:胃瘻？第 139 回でも胃瘻を話題にしたじゃないか。

ゼン先生:そうなんです。実は、9月27日に東京で開催され



↑ 大分駅です。入口には「鐘」の像がありました。「とり天」や「御膳」で有名ですから、中に入ると「おぼす」もありました。ちょうどこの日は何かのイベントがあったのです。



↑ JR 大分駅前のフランシスコ・ザビエル像と大友宗麟像です。二人とも立派な像です。



↑ お城へ参っているとき、こんな像がありました。何か重なり、と思ったのですが、ラグビーワールドカップの記念像だそうです。身体が通中でもぎれていたり見られただけしている。変な像ですが、記念ですからね。



↑ 西洋医学発祥記念像。多分、脚の手術をしているのでしょう。1557年に西洋式病院が建ち、アルメイダ医師によって西洋式外科手術が行われたのです。医学校も建てられたとのこと。西洋医学は長崎よりも大分のほうが先だったのですね。

る第 29 回 PEG 在宅医療学会でのセッションで特別発言をすることになっていまして、その時に何を話せばいいのか、一緒に考えていただこうかと思ひまして。

小越先生：またか。こういう感じでの会話が多いぞ。

ゼン先生：確かに。自分ひとりで考えていると、いい考えが浮かびません。先生と話しているうちに、これだ、というのが見つかることが多いんです。よろしくお願いします。

小越先生：わかったが、そのセッションは、どういう内容？それがわからないと会話もできない。

ゼン先生：全国各地の胃瘻関連研究会の現状と展望について、です。全国の 8 つの研究会の代表者が出ます。

小越先生：全国の胃瘻研究会はがんばっている、という内容なんだろう？

ゼン先生：がんばっているけど、衰退気味、活動自体が低下している、そんな感じの抄録です。

小越先生：衰退気味？

ゼン先生：全国の胃瘻研究会の参加者数が減ってるんです。

小越先生：そうか。参加者数が減ってきているのか。

ゼン先生：私が代表世話人をしている関西 PEG・栄養とリハビリ研究会も、増減の波はありますが、減ってきています。

小越先生：一番歴史のある研究会なのに、なぜなんだ？

ゼン先生：全国的な胃瘻バッシングの結果です。

小越先生：胃瘻バッシングか。要するに、胃瘻は延命治療だ、幸せに死ねなくなる、だったな。

ゼン先生：そうです。マスコミもそんな雰囲気です。胃瘻を取り上げました。ネガティブキャンペーンです。

小越先生：本当は違うのになあ。

ゼン先生：もちろんです。誤解です。胃瘻をどう使うか、それが大事なのに、概念的に、胃瘻は延命治療だ、良くない、となってしまったんです。

小越先生：その間違った考え方は直せないのか。

ゼン先生：難しいですね。胃瘻造設件数は 2010 年頃に比べると半減していますから。

小越先生：それに伴って胃瘻の研究会の参加者が減ってしまった、ということか。

ゼン先生：そうです。それにどう対応するかがテーマです。

小越先生：君はどう対応すればいいと話すつもりなんだ？

ゼン先生：そのアイデアが出てこないから、先生とこうして全話しようとしているんです。

小越先生：そう言われても、オレにもいいアイデアは浮かばないよ。無理なんだよ、ここまで落ち込んだ胃瘻の領域を復活させることなんて。

ゼン先生：そう言わずに、一緒に考えてくださいよ。

小越先生：一緒に考えてください、か？

ゼン先生：延命治療であるとの概念は定着しているようです。

小越先生：それは、これまでの対象が高齢者、脳梗塞後遺症、認知症など、回復の見込みがない症例が多かったからだろう？

ゼン先生：そうですね。食べられないから胃瘻にしようという感じで、かつて、どんどん PEG で胃瘻が作られたのが理由です。



↑ 西洋書局刊『聖蹟文庫』によると、ビオラの遺像を平塚藩が贈っている様です。除幕書によると、1567 年に府内教会で書写聖に聖蹟像が納められ、オルガンの伴奏で賛美歌を合唱したとのこと。が年譜が神父からビオラの遺像法を拝んで、領主大友宗麟の邸で演説したとのこと。



↑ スペイン人のフランシスコ・ザビエルは日本にキリスト教を伝えるために来ました。1551 年に豊後の国（大分県）を訪れ、大友宗麟の庇護を受けて布教活動を行うと同時に、小学校や病院を立て、南蛮文化を広めたとのこと。その結果が大分の銘菓、「ざびえる」なのです。もちろん、私もおみやげとして買いました。有名ですから。



↑ 天正遣欧少年使節の主席正使、伊東マンショの像です。キリシタン大名の大友宗麟などによって 1582 年にローマへ派遣され、1590 年に帰国。帰国後は神父として活動したとのこと。

小越先生：その概念は私共でもよく聞いて、もう、出発し始めているんだから、**ゼン先生**：そうなんですが、なんとおっしゃっているんです。



小越先生：胃瘻を造設してしまうと、もうお終い、という考え方だろう。

↑ 国道 197 号線は、私の故郷、愛媛県の三崎半島を縦断しています。その国道が佐賀関から大分へつながっています。もちろん、豊予海峡を越えて、です。終点はこの看板のすぐ近くでした。なんか、愛媛と大分がつながっているような気がして、うれしかったのです。

ゼン先生：以前、アンケート調査で紹介しましたが、やはり、胃

瘻は一旦造設すると、ずっと胃瘻、最後の手段、そう考えている人が多いという結果でした。

小越先生：そうだろう？どうしようもないから胃瘻を造設するという考え方なんだよ。

ゼン先生：胃瘻を造設しても、経口摂取ができるようになると胃瘻から離脱できる、それを知らしめる必要がありますね。

小越先生：その前に、胃瘻を造設すると食べられなくなると思っている人が多いんだろう？

ゼン先生：その通りです。医療関係者以外の方に対する調査では、そう思っている人が半分以上でした。

小越先生：そうだろうな。完全な誤解なのに。

ゼン先生：つい先日の新聞記事なんですが。「延命・終末期医療：どう思いますか？」に対する一般の方からの投書が掲載されていました。ご主人が誤嚥性肺炎のために胃瘻を造設したんです。看護師さんから「ご主人は料理番組を食い入るように見ておられましたよ。」と言われた。食べる楽しみを奪われ、病気を抱えたままの最後の時間は、夫の苦しみを長引かせただけだったのではないかとの思いが消えない、という記事です。

小越先生：なるほど、と言いたいところだけど。そうではないな。胃瘻を造設すると食べられなくなる、それが問題となっている発言だな。

ゼン先生：そうなんです。まあ、この方は誤嚥性肺炎を繰り返すために胃瘻を造設したので、結果的には食べることはできなかったのかもしれませんが。でも、訓練すれば食べられるようになったかもしれません。

小越先生：そうだな。摂食嚥下訓練をしたらよかったのに。

ゼン先生：それをやると診療報酬がつくようになっているのですが、現場では、なかなか、胃瘻の患者に摂食嚥下訓練をすること、それはできていないのかもしれない。

小越先生：現場では、そういう問題もあるんだな。

ゼン先生：やっぱり、胃瘻を造設すると食べられなくなってしまう、その考え方が蔓延しているんです。

小越先生：確かにそうだ。この看護師の発言の根底には、胃瘻を造設したから食べられない、という考え方があるな。

ゼン先生：そうです。投書された方もそう思っているのですが、看護師がそう思っていること、これが大事です。

小越先生：その通りだ。ということは、主治医も胃瘻を造設すると食べられなくなる、そう思っているんだ。

ゼン先生：主治医も胃瘻を造設すると食べられなくなると思っているから、看護師がそう思い、その結果、患者さん、家族もそう思って、何年も食べるという行為をさせずに亡くなられたということです。

小越先生：そうすると、こういう現状を作っているのは、根本的には医師だ、となるな。

ゼン先生：そうですね。この新聞記事を細かく解釈すると、そういうことになりますね。



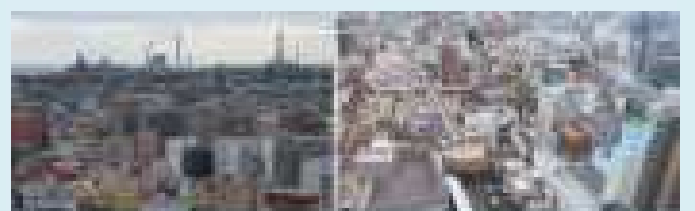
「大分城です。城址公園で、府内城跡です。日本百名城の一つだそうです。でも、城内は駐車場になっていました。ちょっと残念。」



「城の周りのお庭を」回して写真撮影。これが一番いい撮影場所です。お庭園センターの松本先生はトラヤです。1988年に園内タイガースが優勝した時、大分にいたのです。大分の日曜日に遊び込めなかったもので、このお庭に友人と遊び込んだとのこと。泳が遊んでいたのもそのまゝ撮影することができず、空回りの撮影で身体を凍ったとのこと。いい思い出だ！」



「府内城の地下道。珍しい建物ですね。通り地下ですが、お庭を囲む建物となっているのがいい。平成7年度に復元。」



↑ ホテルからの大分市内の写真です。左は港の工場群です。望遠レンズで撮影しました。右は、真下に見えるのが商店街です。JR大分駅まではこのアーケードに沿って歩けば行けます。私がホテルに入ったのは夜の8時半頃でしたが、結構、にぎわっていました。

小越先生：要するに、主治医が胃瘻に関する正しい知識を持っていないことが問題なんだ。

ゼン先生：やっぱり教育ですね、根本的に大事なものは。

小越先生：医師に対する臨床栄養教育ができていないということか。

ゼン先生：先生が TNT を始められた、それ以前の状態になって

いますね。

小越先生：TNT で 2 万人以上の医師を教育したのに。

ゼン先生：その成果がこれか、ですね。

小越先生：残念だ。しかし、胃瘻を造設しても食べられる、その考え方が広まると、少しは解決の方向に向かうかもしれないぞ。

ゼン先生：どういうことですか？

小越先生：胃瘻を造設すると、人生がお終いになる、ではなくなるということだ。胃瘻で経腸栄養を実施しながら食べる訓練をする。そしたら食べることができるようになる可能性があるし、食べられるようになれば胃瘻とおさらばできる。そう考えることができたなら、概念が変わるだろう。

ゼン先生：なるほど。いずれ、胃瘻とおさらばできる可能性があるのなら、胃瘻を造設することに対する抵抗感が弱くなりますよね。

小越先生：その通りだ。しかも、胃瘻を造設しても食べる練習をするという考え方がふつうのことになるだろう。

ゼン先生：とにかく、胃瘻を造設しても食べることができる、その考え方を適正に広めなくてはなりませんね。

小越先生：以前、「胃瘻は第二の口」という表現があったな。

ゼン先生：ありました。でも、胃瘻は口ではありませんね。栄養を投与する経路という意味で、第二の口という発想になったのでしょう。

小越先生：「胃瘻からの経腸栄養」と「食べる」は違う、これを明確にする必要もあるな。

ゼン先生：それから、これも、かつて、ですが、ハイブリッド PEG という用語も使われていたんです。

小越先生：ハイブリッド PEG？ PEG を造設して、同時に口から食べる、という意味なんだろう。

ゼン先生：そうです。最近は使われなくなっていると、私は思っているんですけど。

小越先生：よく考えると、変だな。

ゼン先生：変でしょう？ ハイブリッド PEG なんて用語を使う必要はないでしょう？ ハイブリッドじゃない。胃瘻を造設しても食べられる、これが当然なんです。ハイブリッド PEG なんていう用語を使うと、逆に、PEG、すなわち胃瘻は、ふつうは食べられないんだ、となりますよね。ふつうは食べられないんだけど、ハイブリッド PEG だったら食べられる、となります。

小越先生：その通りだ。胃瘻を造設すると食べられない、その考え方を広めることになってしまう。

ゼン先生：鹿児島で開催したリーダーズ学術集会で、この点が私がかかなり強く主張しました。ハイブリッド PEG という用語は使わないほうがよい、と言いました。それ以来、使われなくなっていると私は思っているんです。

小越先生：強く？ 厳しく、だろう？



↑ 大会で開催した IF エコーと PEG のハンズオンセミナー。松本先生の司会で私が講演し、別府医療センターの経腸栄養師の大井さんの見会で田村さんが講演しました。その後のハンズオンセミナー。みなさん、熱心に IF エコーを使って腹部血管の穿刺を練習していました。看護婦さんは、実際に PEG を挿入している人が多かったのです。もはや、看護婦さん達のほうから看護、気合が入っているように感じました。研修室もがんばれ、と言いたい。



↑ 中津市の福澤諭吉記念館です。福澤旧居、その隣には福澤諭吉の母、お順頭彰碑。りっぱな母親だったそうです。「兄が死んだけれども死んだものは仕方がない。お前もまた、他所に出て死ぬかもしれないが、死生の事は一切言うことなし。どこへでも出て行きなさい。」と言って送り出したとのこと。その後、諭吉は適塾へ入塾して塾頭になっていきます。

ゼン先生：そうかもしれませんけど。

小越先生：胃瘻を造設しても食べられる、この考え方を広めるにはどうすればいいのかを考えないと解決にはならないぞ。若い人にも広めることが大事だな。

ゼン先生：そうですね。現代的な方法としては、ネットや SNS でしょうね。私にはその能力はないんですが、ネットや SNS をうまく使ってこの考え方を広めようとするのがいいんでしょう。

小越先生：インターネットを使うのか。オレにはわからない。

ゼン先生：私もわかりません。誰か、この領域に長けた人ががんばってくれたらいいのですけど。

小越先生：テレビという手段もあるぞ。

ゼン先生：テレビですか。朝ドラの「おむすび」は栄養士が主役だったんですが、胃瘻は出てきませんでした。

小越先生：そうだったな。残念だった。2015年のNHKのニュースウォッチ9で胃瘻を造設すると食べられないという考え方を強調し過ぎて、医療従事者からこっぴどく反発をくらったから、NHKは手をつけたくないのだろう。

ゼン先生：医学監修をした西口先生が、胃瘻を取り上げようと言ったらNHKから駄目だと言われたそうです。それに、最近若い人達はテレビは見ないし、ネットやSNSでは、自分の興味がある領域の記事しか見ないそうです。胃瘻の記事を出しても、誰も見ないんじゃないでしょうか。

小越先生：そういうことか。大変だなあ。

ゼン先生：そう考えると、原点に帰って、本当の学術活動をするしかない、となるんじゃないでしょうか。

小越先生：本当の学術活動か。論文だな。

ゼン先生：そうですね。発表の数はそれなりにあるのかもしれませんが、きちんとした論文は少ない。私が書くべきだと思っている論文は、胃瘻を用いた経腸栄養の経験症例の報告です。

小越先生：こういう症例に胃瘻を用いた栄養管理を実施した、こういう工夫をした、こういう成果があった、こういう苦労をした、だな。

ゼン先生：そうです。胃瘻造設症例が減ったといっても、胃瘻を用いた栄養管理症例はたくさんいます。それなのに論文が少ない。たくさんの症例を症例報告として論文にしたら、そのうち胃瘻の正しい考え方が広がると期待したいんです。

小越先生：地道な活動だけだな。

ゼン先生：でも、今、何ができるか、と考えたら、これが一番重要な活動ではないかと思うんです。症例報告をたくさん書きましょう、じゃないでしょうか。

小越先生：医学中央雑誌として掲載されている雑誌に、だな。

ゼン先生：はい。そういう地道な活動が必要だと思います。

小越先生：PEG・在宅医療学会は機関誌を持っているよな？

ゼン先生：もちろんです。でも、年1回の発行です。

小越先生：年1回か。1回だからたくさんの論文が掲載されているんだろう？

ゼン先生：そこが問題です。残念ながら非常に少ない。昨年の学会の世話人会で、これではダメでしょう、と言ってしまいました。機関誌にはもっとたくさんの、胃瘻に関する論文が掲載されないといけないと思います。

小越先生：ホームページもあるはずだから、症例紹介みたいな欄を作って、匿名性をきちんとし、毎月のように掲載したらいいんじゃないか？



↑ 福澤諭吉像の前で、1万円札を持って記念写真。福村さんの1万円札を占領して撮影しました。福澤諭吉の1万円札です。



↑ これは有名な「中津藩の手しめ」です。右は「大江家」になっていますが、当時から福澤諭吉は女性の娯楽が必要だと提言していました。下は福澤諭吉の旧居と記念館の案内看板です。大分県中津市にとっての重要な観光地でもあります。



↑ 中津藩の御典医だった大江家の屋敷。医家資料館です。10年前に来たことがありました。記憶が定かでなかったのですが、来訪者として「大阪大学井上善文」と書いていました。右は、世界初の全身麻酔を行った華岡青洲が使った薬草、マンダラゲです。初めて見ました。

ゼン先生：でも、誰が編集するか、それが問題です。

小越先生：誰が編集するか？確かに、編集作業は負担になるな。しかし、このゼン先生の栄養管理講座は、君が自分で編集してPDFにしているんだろう？

ゼン先生：そうです。まあ、原稿も自分で書いているので、負担は大きいんですけど。もう、300回近く続けているし、止められない、止めたくないのががんばっているんですよ。

小越先生：PEG・在宅医療学会の誰が、そういう、ボランティア的な仕事を引き受けてくれるか、だな。

ゼン先生：はい。もう一つ、言いたいことがありまして。

小越先生：なんだ？

ゼン先生：この学会はHEQ研究会という名称だったんです。

小越先生：知っている。オレも特別講演で呼ばれたことがある。

ゼン先生：私が会長だった、最後のHEQ研究会の時です。その次の回からPEG・在宅医療研究会に名称が変更されました。私はこの変更には反対だったんです。今、振り返って考えると、HEQのQはQuality of LifeのQなんです。大事なポイントです。実は、一番大事だったんですよ。そのQに対する考え方が希薄になってきているんじゃないかと思ったりしています。

小越先生：学会名が変わったからといって、それはないだろう。

ゼン先生：そうだと思いますが、今、胃瘻問題を解決するためには、それを考えるのが大事ではないかと思っているんです。胃瘻のほうが経鼻胃管よりも高いQOLで経腸栄養ができます。胃瘻のほうが楽だし、有効な栄養管理ができます。

小越先生：なるほど。胃瘻問題を解決するためにQOLを考える、原点に帰る、いいアイデアじゃないか。

ゼン先生：ありがとうございます。だいたい考えがまとまりました。これで特別発言をやってきます。

小越先生：それに加えて、胃瘻の啓発活動をもっと外に向けて



↑ 福澤諭吉記念館の入口に飾られていた写真です。若い頃の写真です。左の洋装の写真は初めて見ましたが、なかなか、素敵らしい。



↑ 中津城です。黒田官兵衛が築城し、細川忠興が完成させた城です。水城として有名で、堀には海水が引き込まれています。今治城、高松城と並ぶ日本三大水城です。城の建物が石垣からはみ出ているのですが、なぜ？と田村さんといろいろ想像したのですが、そういう建築様式なんでしょう。

発信すべきだ、と発言してきなさい。なんか、胃瘻仲間で固まっているんじゃないか？内向きの活動しかできていないように見えるんだが、違うか？外向きの活動をするべきだ。オレからのアドバイスだ。

ゼン先生：そうですね。私もそんな感じがしています。そうじゃないと言われると思いますが。

小越先生：外から見ると、だよ。

ゼン先生：わかりました。東京でがんばってきます。

【今回のまとめ】

1. 9月も非常に暑かった。9月は秋、という考え方はもうできなくなりました。
2. 金沢と大分へ講演に行きました。私なりに観光もしてきました。どちらも暑い日でした。
3. 胃瘻の領域が右肩下がりで、胃瘻だけではなく、経腸栄養、そして静脈栄養も、です。胃瘻の研究会の参加者数が減っているので、どうすればいいのだろう、という議論がPEG・在宅医療学会で行われます。
4. 対応はよくわかりませんが、私としては、①胃瘻を造設すると食べることができなくなるという誤解を払拭する、②症例報告としての論文をせっせと書く、③本来の胃瘻の目的：QOLが改善することを積極的に発信する、などが大事だと思います。
5. 胃瘻は延命治療のためではない、QOLを維持・高めるために使うのだ、という本来の目的を理解してもらおう、みんなで協力してがんばりましょう。
6. 胃瘻を造設しても食べることができる、この正しい考え方を広めましょう。